考論

中台の関係は低位安定か

台湾と中国は今、政権間の対話だけでなく水面下のコミュニケーションもない。かつては例えば政権の意を受けた学者同士の接触があった。様々な実務対応のために必要なことだ。

当選した賴清徳（ライチントー）氏との間では何らかの連絡を復活させるはずだ。まずは5月の総統就任演説で賴氏がどんなメッセージを発するかが中国側の関心事項だ。

ただ、表向きは別だ。習近平（シーチンピン）政権は台湾に圧力をかけ続ける。賴氏に対して中国側は強い調子で個人攻撃をしてきた。中台首脳会談の実現は考えにくい。関係は低位安定だろう。

東大教授（中台関係論）

松田康博氏

今年は米国の大統領選もある。次の政権の対中政策を見極めるまで、中国は経済の立て直しに注力するのではないか。

米国には台湾をめぐる三つの心配がある。①台湾が中国を挑発する②台湾が中国に近寄ってパワーバランスが崩れる③北東アジアが不安定化して経済に影響が出る――というものだ。蔡英文（ツァイインウェン）政権の8年は全てを抑え込んだと評価できる。

この間に米国など主要国は対中関係を見直し、デリスキング（リスク軽減）を模索してきた。台湾の立場に各国が追いついてきたとも言える。

（聞き手・村上太輝夫）